

# 令和 4 年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	2		学校名	茨城県立高萩清松高等学校					課程	全 日 制			学校長名	橋 本 晃 輝				
教頭名	菊 池 幸 恵										事務(室)長名	磯 崎 勝 美						
教職員数	教諭	35	養護教諭	1	ALT	1	常勤講師	9	非常勤講師	13	実習教諭、実習講師 実習助手	4	事務職員	3	技術職員等	3	計	68
生徒数	小学科	1年次		2年次		3年次		4年次		合 計		合計クラス数						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	13クラス						
	総合学科	76	58	55	66	73	77	0	0	204	201	405名						

## 2 目指す学校像

- ◎ 自主自律の精神を重んじ、知徳体にわたる「生きる力」を育成する。
- 自ら学び…生涯にわたって学び続けようとする姿勢
  - 自ら創り…知識や情報の中から知恵を絞り新たなものを生み出す探究心
  - 自ら拓く…人生を切り拓く強い意志

## 3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ○ 主体的に学ぼうとする姿勢と新たなものを生み出す探究心を育み、自己の人生を切り拓き、地域社会に貢献できる人財の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ○ 基礎学力を目指しつつ、生徒の学習ニーズに対応した教育課程による、多様な進路希望の実現
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ○ 普通高校と専門高校の長所が一つになった「総合学科」の本校において、各系列との適性を見極めながら、自らが望む将来を自ら創ろうとする生徒

#### 4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 将来に対して明確な目的意識をもつ生徒が少ない。</li> <li>② 生徒一人一人に学力差があり、教科による学力の偏りも見られる。</li> <li>③ 自宅での学習時間が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 生徒が興味・関心をもてるよう、ICTを活用し、丁寧でわかる授業を展開したり、探究的な学びをしたりするとともに、指導内容を精選し、どのように工夫改善して展開するか。</li> <li>イ 基礎・基本を確実に定着させるために、授業の展開の仕方を工夫したり、補助教材等をどのように活用したりするか。</li> <li>ウ 自宅での学習習慣を身につけさせるため、宿題や課題をどのように与え、期限までに提出させるか。</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 目的意識をもち、意欲のある生徒の自己実現を図らなければいけない。</li> <li>② 社会人として必要なコミュニケーション能力やマナーがやや欠如している。</li> <li>③ 卒業時を見通した1・2年次の進路指導が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 将来の進路を見据え、目的意識を持てるよう、キャリア・パスポートを効果的に活用していくなど、進路指導をいかに充実したものにするか。</li> <li>イ 将来の進路をじっくりと考えられるよう、効果的な面接や進路指導・体験学習・授業「産業社会と人間」等をどのように関連づけて実施するか。</li> <li>ウ 勤労の意義や重要性について、意識をどのように高揚させるか。</li> <li>エ 四年制大学への合格者と系列における資格取得者の増を継続的に目指す。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自ら進んで挨拶できる生徒が少ない。</li> <li>② 服装・頭髪等の乱れは改善されつつあるが、皆無とはいえない。</li> <li>③ 自ら考え、主体的に行動しようとする生徒が少ない。</li> <li>④ 保護者と連携を取りながら指導する体制が十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 理由の不明瞭な欠席・遅刻・早退をいかに減らしていくか。</li> <li>イ 高校生活に適応するための指導や個に応じた指導をどのように充実させるか。</li> <li>ウ 全教職員協働で、挨拶・礼儀・服装・頭髪・ピアス禁止等の指導を徹底させるにはどのようにしたらよいか。</li> <li>エ 生徒理解を深める個人面談、保護者への連絡や依頼、保護者との連携した指導には、どのような方策が効果的か。</li> <li>オ 公共マナーの意識を高めるための方策は何か。</li> </ul>
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ホームルーム活動や部活動の自主的・自発的な参加が不十分である。</li> <li>② 学校全体に活気が更に欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア ホームルーム活動や学校行事、生徒会活動、部活動へ積極的に参加させるにはどのようにしたらよいか。</li> <li>イ 学校行事の効果的運用を図り、集団の一員としての所属感を育てるにはどのようにしたらよいか。</li> <li>ウ ホームルームや委員会、生徒会の役員等について、リーダーとしての資質を高め、シチズンシップ教育をいかに推進していくか。</li> <li>エ 生徒が将来の進路を見据え、目的意識を持てるよう、キャリア・パスポートをいかに活用させていくか。</li> </ul>
保護者、地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>① P T A 活動への保護者の参加が十分とはいえない。</li> <li>② 中学生やその関係者が総合学科の内容を理解してもらうための発信が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア P T A の活動および保護者向け懇談会等に、いかに積極的に参加していただくか。</li> <li>イ 中学校へ総合学科の内容や本校の活動方針を伝え、いかに本校の教育を理解してもらうか。</li> </ul>
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 伝統として続いている学校行事の見直しを図られているとはいえない。</li> <li>② 仕事の生産性を高めたり、業務の効率化を図ったりすることが十分とはいえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 伝統的に続いている学校行事について、いかに生徒の実態に応じた見直しを図れるか。</li> <li>イ ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、1カ月の超過勤務が45時間を超えないようにするために、仕事の生産性をいかに高め、業務の効率化をいかに図るか。</li> </ul>

## 5 中期的目標

- (1) 授業時間を確保し、わかる授業の実践と探究的な学びに努め、自ら学び、自ら考える学習を促すための基礎学力の向上を図る。
- (2) 「我慢する心」をはじめ、豊かな心の育成に努め、職場体験やボランティア活動を通してマナー教育に取り組む。
- (3) 生徒の多様な進路希望の実現を図るために、3年間を見通してコミュニケーション能力を育て、個人面談・進路ガイダンス・体験学習等の進路指導を充実する。
- (4) 生徒、保護者、地域社会への情報を発信し、「地域の中の高等学校」として地域とともにある学校づくりに努める。
- (5) 教職員の1か月の在校勤務時間については、原則として超過勤務45時間以内となるよう、業務の効率化や削減を遂行する。

## 6 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
(1) 自主自律精神と豊かな心の育成	<p>ア 基本的な生活習慣及び社会的ルールや社会生活に必要なマナーを身につけられるよう支援する。</p> <p>イ 「挨拶」をする・「時間」を守る・「身だしなみ」を整えるということを徹底し、規範意識を高め、自ら進んで行える礼儀正しい誠実な生徒の育成に努め、地域から信頼される学校づくりを目指す。</p> <p>ウ 奉仕的活動等への参加を積極的に推進し、豊かな人間性を養う。</p> <p>エ 「道徳」及び「道徳プラス」の指導を工夫し、他人を傷つけず、思いやる豊かな心を育成する。</p> <p>オ 生徒一人ひとりの個に応じたきめ細かな指導に努める。</p>
(2) 将来の夢や希望を実現するキャリア教育とICT教育の推進	<p>ア 生徒が将来の夢や希望を実現できるよう、進路に応じた基礎学力の定着や資格取得に力を入れる。</p> <p>イ 進路実現に向け、家庭での課題を課したり、提出の期限厳守を徹底したりして、自宅学習を支援する。</p> <p>ウ 授業「産業社会と人間」等を通して、キャリア・パスポートを活用し、1年次からキャリア教育を実施することで、自ら進路を選択し、目標を決定できる力を育成する。</p> <p>エ ICTを活用し、主体的に学ぶ姿勢と課題発見、課題解決能力を育成する。</p>
(3) 他者との協働による特別活動の実践とシチズンシップ教育の推進	<p>ア 部活動への積極的な参加を奨励し、主体的な活動で個性を伸ばし、さらに充実した学校生活を送らせる。</p> <p>イ 学校行事への積極的・意欲的な参加を促すとともに、ホームルーム活動、生徒会活動等を充実させ、達成感を味わわせ、連帯意識を培う。</p> <p>ウ シチズンシップ教育を通して、自分たちの課題について、自分たちで話し合い、自己決定する力を育成する。</p>
(4) 働き方改革とコンプライアンスの徹底	<p>ア 伝統として続いている学校行事は見直しを図る。</p> <p>イ 仕事の生産性を高め、業務の効率化に努める。</p> <p>ウ 教育者としての自覚をもち、服務規律の確保に努める。</p>